

研究報告書：観光化による女性移民のエンパワメントー中国広西省に移住してきたベトナムヌン族女性を事例に

グローバル・スタディーズ研究科
国際関係論専攻博士後期課程
Ke yejia

報告者は上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科よりいただいた「2023年度グローバル・スタディーズ研究科研究助成金」をもとに、「観光化による女性移民のエンパワメントー中国広西省に移住してきたベトナムヌン族女性を事例に」をテーマに現地調査を実施した。

研究の背景

中国とベトナムは、約千キロメートルに及ぶ国境線を共有しており、今回の研究が行われた村はこの国境上に位置している。これらの国境線に位置している中国とベトナムの村々は川や山を挟んで隣接しており、村民は通常非公式な手段で国境を越え、10分以内に対岸の村に到着することができる。

本研究の研究対象は広西国境村落に移住してきたベトナムのヌン族女性移民である。彼女たちとホスト社会の村民とは同じ言語、習慣、文化を共有する同系の民族である。両地の村民は国境越え親戚友人訪問や、買い物するなど民族間の交流は、中国とベトナムが建国される以前から始まっていた。

研究目的：

今回の調査で報告者は、広西実施している観光政策がどのようにそれらの中国国境村に結婚移住してきたベトナムヌン族女性移民にエンパワーされるのかを明らかにする。

研究成果

報告者のこれまでの研究では、ベトナム移民女性のホスト社会中国の国境村落に焦点を当てており、彼女らの中国側での生活について研究をしている。たとえば、彼女らは中国での出稼ぎを通じて経済的上昇やそれに伴う社会的・家庭的地位の向上などを明らかにした。しかしながら、彼女たちの送り出し社会、つまりベトナムカオバン省に関連する調査を行っておらず、不十分であると思われる。なぜなら、移民国での彼女たちの生活と出身国での生活は表裏一体であり、ベトナム移民女性が出稼ぎ労働によるエンパワメントーを分析するには、彼女たちが移民国での生活と、出身国での状況を理解する必要があり、理解は不可欠である。

しかし、報告者はベトナム語が操ることができるが、現地調査をするために、現地の民族

言語の翻訳、ベトナム国境村落への医療措置、関連情報の収集などの費用は非常に高額である。このために、報告者はグローバル・スタディーズ研究科に助成していただき、ベトナム側の国境村落での研究を補完する機会を得ることについて感謝します。

報告者は今回の現地調査からベトナム移民女性の出身社会、ベトナムカオバン省の状況を理解し、社会、文化、経済などさまざまなデータを得たことができた。今回の成果については以下の三つに大別されている。まずは、ベトナム側の国境村落や所在省までの公式データ、例えば現地村から中国の国境に移民する村民の数などである。この部分ではベトナム村落の地元村長から協力を得た。次は、地元の社会的および文化的な情報を得た。たとえば、地元村民の経済収入や生計、地元で日常的に使用されている言語などである。最後は今回の調査を通して、報告者は地元の村が向こう側の中国への認識に関する情報を得た。以上のこれらの情報の取得により、報告者はそれらのベトナム移民女性が中国国境村での観光業仕事に従事によりエンパワーメントされるプロセスについてより明確に理解することができた。